

平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）【概要】

日時：平成28年11月21日（月）
午後1時30分から午後3時30分まで
場所：千葉県教育会館6階 604会議室

1 出席委員（敬称略・名簿順）

鈴木 政男，大森 英一，古川 聖也，柴内 靖，友杉 修三，雑賀 ますみ，佐久間 勝彦，
東條 三枝子（委員長），齋藤 明（副委員長），森山 理恵，加藤 珠以，小林 公人，前田 恒久

2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会あいさつ

(3) 報告

①平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について

②平成29年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜実施要項について

③平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

④その他 全国高等学校入学者選抜改善協議会の資料について

(4) 協議

①平成29年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

②平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

③外国人の特別入学者選抜について

④その他

(5) 閉会のことば

3 協議内容

① 平成29年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

- ・動向調査で丁寧にアンケートを取っていただいたが、分析の傾向が見えてこない。2回試験を受けるメリットだけでなくデメリットも勘案して、それを踏まえて原案を作る方向を示してほしい。
→「前期選抜と後期選抜における受検動向の分析」で、後期受検者の4割は違う学校・学科を受検しており、2回のメリットをある程度活用できていると考えているが、それを踏まえて御協議をいただきたい。
- ・2回受けているからメリットがあると単純に言っているのか。中学生が本当に望むような入試に変えようという思いでやっているのか。高等学校の校長会で行ったアンケートでは「一本化したほうがいい」という回答が8割である。中学校の校長先生方の意見としてはどうか。受検生や保護者に訊いても、「1回よりは2回の方がいい」という結果になる可能性があるので、2回受検のデメリットをもう少し周知させた方がよい。
- ・受検を経験された近隣の母親たちからは、「本当に2回というのは苦しい」という意見を多く聞いてきた。「一本化」の噂を聞き、委員の中からも「一本化」という意見が多く出ていて、入試1回の県の方が多いい中で、千葉県がどうして2本化を押し付けてくるのかというメリットを教えてください。
- 都市部と郡部の差も結構あるが、都市部では2回あった方が、1回目はややチャレンジ的な部分、2回目は実力といった、幅広い選択肢が得られるところがメリットであると考えている。
- ・子どもに入試をさせた経験から言うと、1回でも2回でも同じだと感じたが、1回で終わった方が精神的に楽である。以前から「1回になる」と言われていて、子どもたちも不安にしている。いつまでに、何年度までに決めるというようにしていくことが大事である。
- ・県内の高等学校の校長協会のアンケート結果（速報値）では、「日程や入試期間等については昨年とほぼ同じように「適切である」という回答が多数であった。「今後の入試制度については、「改善が必要である」とし、「1回の入試にする」という回答が一番多かった。
- ・事務局も改善をしないとやっているわけではない。前期・後期を受検した者のうち、4割近くが違う学校を受けた、受ける予定だったとしている。そのような生徒がいることを踏まえ、また、事務局が示す意向調査等を踏まえて慎重に改善をすべきではないか。急ぎ過ぎずに、調査結果の数値を見極めた上での改善が望ましい。

- ・アンケートも含めて、検討プロセス（案）は保留にすべきではないか。一本化の時期を明確にするという方向で話し合いをすべきである。
 - この協議会は、何かを決めるというような議決をする場ではない。そういう意見があったということ踏まえて事務局で検討することとしている。
- ・調査データを含めてアンケートそのものの問い方に間違っている部分があるのではないかと。次のプロセスで行うアンケートの問い方によっては、子どもたちの本当の願いが見えてこないのではないかと。
- ・中学校長会のアンケートでは、約7割が一本化に賛成している。今後、調査結果を見て、一本化に向けた原案を作ってもらいたいことを期待している。
- ・前回の会議で「今年度で一本化にするかどうかを決めたい」と発言された記憶がある。今年度の会議の最終結論は、今後一本化にするかどうかということではないのか。
- 前回の協議会において、今年度の協議会では一本化について本格的に議論を始めることは考えていないと答えている。前期・後期受検者ともに受検した者のうち、違う学校・学科を実際に受検した割合が40%で、相当な数だと考えられる。平成28年度入学者選抜から専門学科については、前期選抜枠100%の受検枠が設定できるように制度が変わった。その制度変更を踏まえ、この割合をどう捉えるのかについては、意向調査を行うことで新たに把握できる内容ではないかと考えている。これまでの改革の経緯をきちんと踏まえた上で、動向調査や今年度末の受検生に対する意向調査を総合し、より丁寧な検討を進めていきたい。現時点では、情報として不十分である。
- ・単なる受検生の意向調査にならないように、いろいろな角度からアンケート項目を吟味し、本協議会での意見を踏まえた調査をお願いしたい。
- 協議会での意見を踏まえて検討する。
- ・アンケートの中身を見せてもらえるか。
- 今後、検討する。

② 平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

- ・（案A）では、第2次募集の結果発表が遅すぎて新年度の準備に間に合わない。3月17日までに全ての日程を終了してもらいたい。そのためには、後期の志願変更を2日から1日にする、あるいは第2次募集の受付を後期同様2日から1日にするなどの修正が必要ではないか。
- ・（案B）については、1月末から前期の受付をするのは、中学校側に対する負担が大きすぎる。（案B）で考えるならば、例えば、土曜日に選抜を実施するなどの変更も考える必要があるのではないかと。
- 今年の日程でいうと、東京都の私学の一般入試が2月10日で重なってしまうので難しい。
- ・（案A）は、前期選抜の前の日が休日となっており、学校運営上、支障があり困る。
- ・受検が全体的に早くなっていて、子どもたちが落ち着いて勉強する時間が足りていない。試験については後の方の設定がありがたい。多くの子どもたちは私立の前期・後期を受けている。子どもたちの負担を考えると是非（案A）でお願いしたいというのが中学校長会の考えである。
- ・高等専門学校との兼ね合いとして、公立の入学確約書の締め切りが高専の発表の後になるよう、配慮してほしい。

③ 外国人の特別入学者選抜について

- ・前回会議で、関係団体の方を呼んで、意見を聞く件はどうなったか。
 - 来年度、専門部会等で検討する。
- ・外国人特別入学者選抜に関して、どんな問題点があると考えているか。
 - 枠の拡大については、外国人生徒の増加に対応して増加を図ってきている。さらに幅広く、問題点について専門部会で検討する。
- ・外国人特別入学者選抜において、不合格になった者は、どのような理由で合格にならなかったのか。定員を増やしても、入学者を増やしていくことにはならないのではないかと。
 - 合否の決定については、当該学校長が総合的に判断して出した結果である。
- ・外国人等別入学者選抜の場合、面接と作文が開示対象になっていないので、外国人生徒が不合格になった理由についてわからない状態が起きている。
- ・入学後、日本語を教えたり、外国語の相談員などが十分に配置されないと、枠を拡大しても、子どもたちも教職員も苦しみ状態になる。人の配置も考えていただきたい。
 - 今後、検討する。

- ・来日して3年という受検資格についても検討してもらいたい。
→要望として承る。
- ・現在実施している学校は都市部に集中している。郡部でも外国人生徒の数はそれ相応のものがあるので、その対応についても、実態調査を踏まえて実施校の選定についても検討してもらいたい。

④ その他について

- ・調査書の事前開示をするようになったが、市町村によって対応が異なり、大きな負担がかかっている所もある。どの部分を開示するかというものも地域によって違っており、統一感がなくて現場では困っているので、検討してもらいたい。
→市町村教育委員会の指導の下、それぞれの方法で受検生への確認等をしていただいている。昨年度については、評定に関する事故はなかった。今後確認作業等、欠席日数や部活動等も含めて事故がないようお願いしたい。
- ・入試一本化について話し合うために、3回目の協議会を開いてはどうか。
→受検の動向調査については、前期で専門学科を100%募集できるという時期を挟み、2年間にわたり実施してきた。専門学科を100%にした、その効果についてより丁寧に分析するとともに、意向についても調査し把握する必要があるので、それを踏まえた上で、来年度に向けて専門部会を設置して議論をしていきたい。
- ・次の機会があれば、これから実施するアンケートの中身を知らせていただけて、それについて意見を述べる機会なり、方法なりがあるという感じがする。